

「働き方革新」と「知恵を活かす経営」 の研究WG

2017年度ワーキンググループ
活動趣意書

2017.5.30

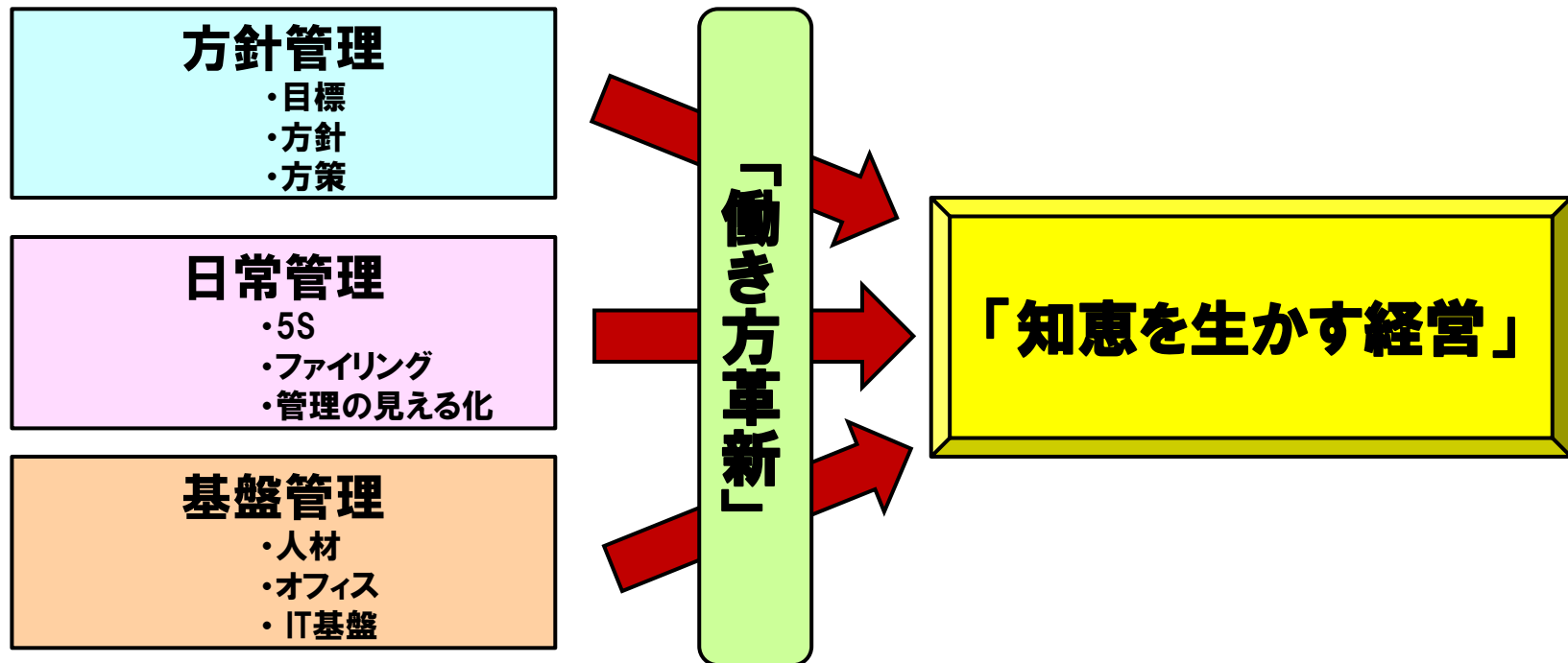
改革プロジェクト研究会(KPJ STUDY GROUP)

1. 研究の企画

★「働き方革新」と「知恵を活かす経営」の研究の取組み方向

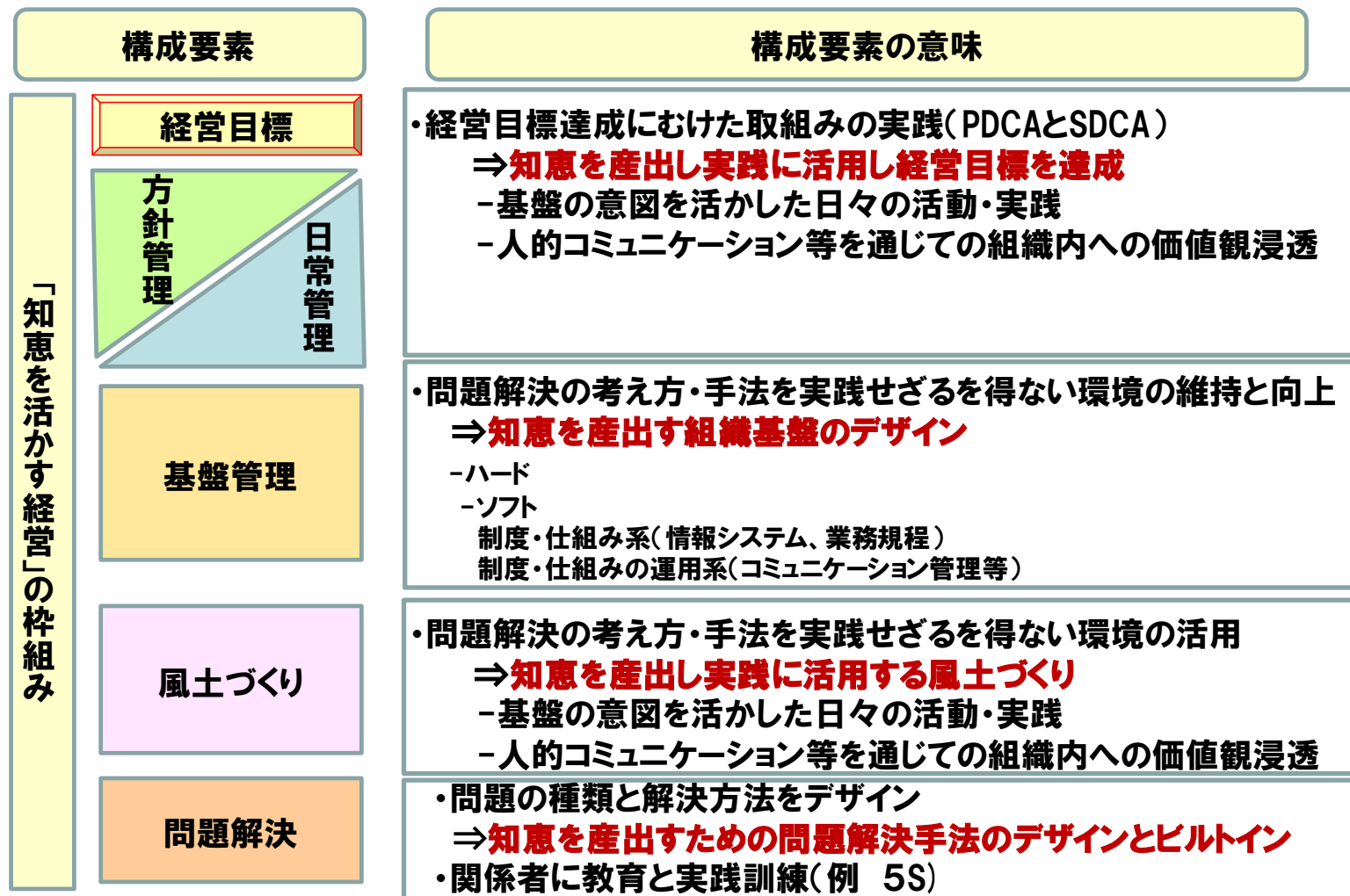
- ・方針管理
- ・日常管理 (5S・ファイリング、管理の見える化)
- ・基盤管理 (IT基盤、人材、オフィス)

を
 「働き方革新」
 「知恵を活かす経営」
 のようなコンセプトにまとめる。



2. 知恵を活かす経営の枠組み(仮説)

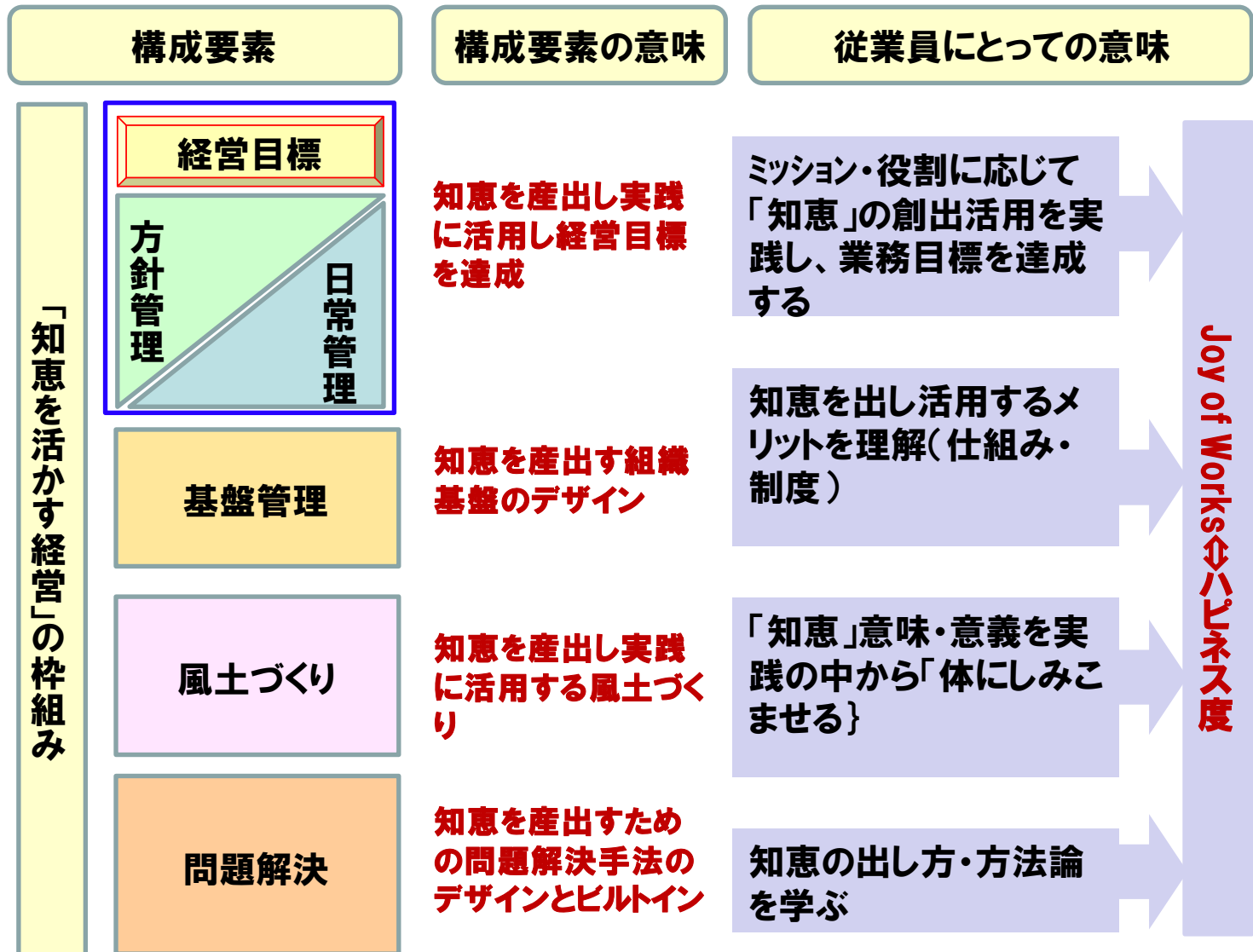
- JERA殿、新日鐵住金殿の事例をもとに、「知恵を活かす経営」の枠組みを明確化し、工夫点や教訓をまとめてみたいと考え、下図のようにまとめた。



- 上記枠組みは、改善リーダーが、知識整理や手法・活動の位置づけ整理の枠組みとして活用すべきで、実務者がすべてが知識として持つことは想定していない。

3. 知恵を活かす経営と働き方革新の関係

●「知恵を活かす経営」の枠組みと「働き方革新」との関係性について、考察した結果を下図に示した。



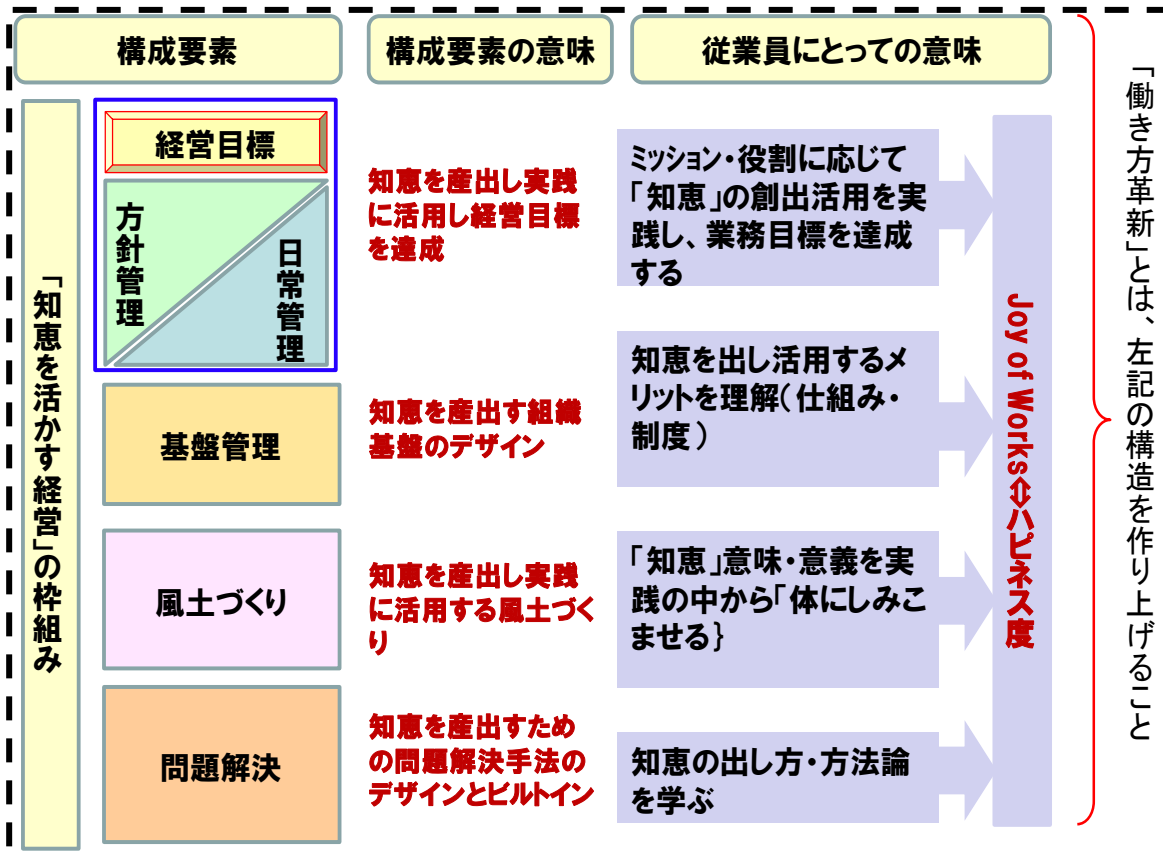
「働き方革新」とは、左記の構造を作り上げること

Joy of Works ⇄ ハピネス度

4. 2017年度の研究取り組み方イメージ

- 「知恵を生かす経営」と「働き方革新」の関係性明確化(目指すもの)
- 「知恵を生かす経営」の枠組みに基づき、その構成要素の意味合いを従業員レベルまでブレイクダウンし、「働き方革新」の構造を検討。
- 上記枠組みを「組織開発」の観点から検証しモデルを検討

2016年度のアプローチ



組織開発のアプローチ

「組織開発」

<目指すもの>

- ・組織の人的側面の効果性と健全性を高める

<変革対象>

(ハード面)

- ・戦略や構造、制度、ミッション、方針

(ソフト面)

- ・組織内のプロセスや組織文化等の人的要因を含めた諸次元

<進め方>

- ・アティテュード、コミュニケーション、問題発見、人財育成

5. 2017年度の活動概要とスケジュール

《活動の概要(案)》

- 研究会の取組みテーマは、「知恵を活かす」「働き方革新」を組織開発の観点から議論し、アウトプットをスパイラルアップさせていく方向とする。
- 四半期1回程度のワーキング会合を開催。(年間4回程度)
- 会合は金曜日の15:00-17:30(+懇親・懇談会)とする。

《活動スケジュール(案)》

研究会日程(案)		2017年度			
		第1回	第2回	第3回	第4回
		6~7月	9~10月	12~1月	3~4月
活動内容(案)					
検討の枠組み(背景、検討アウトプット等)	●				
組織開発に関わる研究		●			
他企業事例研究			●		
組織文化に関わる研究				●	
まとめと次年度にむけた企画				●	

※第1回は6月23日に開催予定

研究会メンバー(2016年度)

会社	所属・役職	氏名	備考
J E R A	代表取締役社長	垣見 祐二	研究会リーダー
	経営企画本部 企画部 投資管理ユニット ユニット長	長谷川 裕一	
	経営企画本部 企画部 投資管理ユニット兼事業支援部 総務ユニット (5S担当) 主任	安田 俊一郎	
	経営企画本部 企画部 投資管理ユニット兼事業支援部 総務ユニット (5S担当) 主任	小山 豊	
	事業支援部 総務ユニット 課長	土肥 康伸	事務局幹事
日本ビジネスクリエイト	代表取締役社長	阿部 幸裕	研究会サブリーダー
リアライズ	代表取締役社長	大西 浩史	
東京パワーテクノロジー	執行役員 契約部長	丸山 稔	
九州電力	執行役員 業務本部 副本部長	永友 清司	
中部電力	資材部 管理グループ 課長	久野 高志	
東京電力ホールディングス	原子力資材調達センター サプライヤソーシンググループ グループマネージャー・副部長	臼井 健一	事務局幹事
東京電力フュエル&パワー	包括的アライアンス推進室副室長	酒井 陸生	
昭和シェルビジネス&ITソリューションズ	グループIT事業本部 プロジェクトデリバリー部	小山 美枝	
マイクロポート・オーソペディックス・ジャパン	エクストリミティ部 プロダクトマネージャー	牧田 陽子	
成田運輸	経営企画担当	成田 智美	
新日鐵住金	業務プロセス改革推進部 システム企画1室	影山 優	
東京大学	先端科学技術研究センター 特任教授	西岡 潔	